

帝京大学 小野隆一郎選手

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝

小野隆一郎選手が1区で出場

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走が2022年1月2日・3日の両日行われ、1区(21・3km)に白糠町出身の小野隆一郎選手が出場し、1時間1分51秒で区間8位というすばらしい成績を残した。

小野選手は小学1年の時、兄の誘いで、白糠陸上少年団に入団。中学生の時に走った「駅伝」がき

っかけで、高校は駅伝部のある「北海道栄高等学校」に進学。高校3年時には、駅伝の高校日本一を決める「全国高等学校駅伝競走大会」の1区(10・0km)で4位という好成績を残した。その後は、箱根駅伝への出場を夢見て帝京大学に進学。しかし、昨年は箱根駅伝に出場することができなかった。

小野選手は「大会直前に右膝を痛めてしまい走ることができませんでした。自分としても残念でしたし、チームにも迷惑をかけてしまいました。常に体のケアはしていたのですが、気持ちに油断があったのだと思います」と、悔しさをにじませた。

そして今年、夢に見た箱根に1区(21・3km)で出場。「初めての箱根ということもあり、うまく走れるか不安でした。今までで一番緊張していたと思います(笑)」。

1区のランナーとしてチームに「いい流れ」をつくるのが自分の役目という小野選手。「最初の5kmくらいまではハイペースで走ったです。吉居選手(中央大)が抜け出してからはペースが落ち着いたので、自分の走りができたと「思います」とレースを振り返った。17・5km過ぎ「六郷橋」手前の上りで、2位集団に大きな動きがあった。「後半は足に疲れを感じて、上りで離されてしまいました。その後の下りで追いつくことができませんでした。あそこはいい走りができたと「思います」と話した。

帝京大学は往路を史上最高の2位という結果で終えた。「2位という結果に正直うれしい気持ちもありましたが、目標は優勝だったので、そこは自分の力不足を感じました」

小野選手に来年の目標を聞いた。「5kmと10kmで自己ベストを出す」と、駅伝大会で区間の上位に入ることが目標です。自分は走ることでしか恩返しができないので、いい走りができるように頑張ります。皆さんの応援が自身のモチベーションにもつながっていますので、また応援してもらえたらうれしいです」

小野選手に、ふるさと白糠からあたたかなエールを送りたい。



箱根駅伝を走る小野選手 (釧路新聞社提供)

おの・りゅういちろう

2001年4月21日、白糠町生まれ。白糠小、白糠中学校卒業後、駅伝への強い思いから北海道栄高等学校に入学。その後、箱根駅伝を走るために帝京大学へ進む。2021年7月4日開催の函館マラソン(ハーフ)の招待選手に選ばれる(新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)。2022年1月23日開催の第27回全国都道府県対抗男子駅伝に北海道代表選手としてエントリーされるも、大会は新型コロナウイルスで中止となっている。兄、妹との3人きょうだい。趣味は読書。